

質問者



植田喜晴 議員

Q 主要生活道路の歩道整備を

A 早急な改良を県に強く要望

問 町内の主要生活道路である松山・松前・伊予線、八倉・松前線などは近年交通量が増加し危険が増している。特に子ども、高齢者、障害者等には整備された歩道の確保が重要。計画はどうなっているか。

答 浜交差点は、車線拡幅や歩道整備を含めた早急な改良を県に強く要望しています。また、北伊予小学校南一学区間は、歩道整備が難しく安全が懸念されていたが、上野鶴吉バイパスが8月に供用開始され交通緩和が図られます。

答 佐伯助役

問 プルサーマル計画は住民説明と慎重な検討を

伊方原発のプルサーマル計画は危険で、松前町も事故の際は深刻な影響を受ける心配がある。住民への説明と、慎重に検討し決定するよう四電、愛媛県に要請を。

答 住民説明会は考えていない

白石町長

四国電力は県内全所帯にチラシを配布等々、県民の理解を求めるべく周知しており、当町として住民説明会は考えていません。安全性については最も重要なことであり、十分審議する必要があります。



浜交差点

問 雨水の浸水対策計画は

筒井地区浸水対策は、現計画では心配。見解と対策を求める。他の地域も雨水対策が必要だが、公共下水・雨水計画はどうなっているか。

答 総合雨水対策に基づく内水排除を計画

佐伯助役

筒井地区浸水対策事業は、平成9年に着手し現

在までに約600mの改修を終えました。筒井東地区は家屋が密集し、水路改修は非常に困難な状況のため、基本計画を見直します。雨水内水排除は、長尾谷川右岸、左岸の排水対策として、それぞれにポンプ場の新設を計画しています。

問 公共下水道(汚水)事業計画変更の検討を

公共下水・汚水計画の総事業費と予定期間はどうか。この事業は莫大な費用と期間を要する。費用と期間の縮小を考え、未認可区域は合併処理浄化槽も含めた見直し・検討をするように提起する。

答 今年度中に全体計画を見直し 忽那下水道課長

町全域の完成は平成83年頃、総事業費は管渠処理場の費用として約300億です。調整地域の汚水処理形態や、合併浄化槽の効果を十分調査し、

今後の公共下水道を検討します。

問 行政主導で協議し官民境界の確定を

公共事業による官民境界は、行政が事業の中で処理・確定すべき事務であるが、未定で放置されている例がある。今後、行政が主導して確定に向け協議し、合意が困難な場合は第3者機関に調査・判断を求め、境界確定の判断としてはどうか。

答 境界確認は隣接者の合意が基本 町達まじり課長

未登記が判明した場合、町の責任として速やかに所有権移転登記手続きを行っていただきます。合意が見出せない場合は、第三者機関での解決にゆだねることも考えます。

この他に「木造住宅耐震化促進補助金制度」の創設を求めました。